Report opening
The Roots of Asia 1 "Sha a ya"

日時　２００５年　１２月２７日　PM６：３０

ビダダリ　ディレクターの挨拶のあと、各アーティストの紹介、3名による挨拶が行われた。
テープカットの後、開場。催しとして、プラネットバンブーによる踊りと演奏が別棟で行われた。

挨拶者

１、ギャニャール県知事　（知事が出席できなかったため、代理として街作り局長が手紙を読み上げた。）
Cokorda Nindia
２、日本国領事（在デンパサール）
野村昇
３、九州大学大学院教授
藤原恵洋

挨拶文

Made Sudiana （BIDADARI Art Director) 挨拶文

ギャニャール県庁の方、マレーシアやインドネシア、日本からの関係者の皆様がた、ここにお集まりになった人々に謹んでご挨拶申し上げます。
　今回の展示会Sha a yaは、タイトルをRoots of Asia１　としてアジア3カ国の作家、作品を集めました。このタイトルは私のここ数年来の探求のひとつのテーマであります。その第１回目をここにお集まりになった皆様と祝うことができて光栄に思います。
　私は、そのようにいろいろな違う文化の人が集まった時の共通の言葉は、人間、愛だと思っています。
インドネシアの国も同じようにいろいろな民族が集まる多民族国家です。その中の私は、バリ人です。バリの文化については、いろいろな意見があるでしょう。バリの文化の中には、マイナスしてもマイナスしても残るものがあると私は信じております。
今日集まった国の人々も、いろいろな国のかたがたです。それは各々同じだと思います。お互いのルーツをさがしてください。
そして、人間や愛という共通の言葉でお話しいたしましょう。
皆様や作家の方、たくさんの人々が交流していただくことが私の今回の主旨です。どうぞこれらのアートがコミュニケーションの核となることをお祈りいたします。
　バリの文化、観光の発展を願いギャニャール県にはとても協力していただきました。ガルーダインドネシア航空、日本国領事館領事殿、日本人会、ウブドヴィッレッジ、テラゾ、プラネットバンブー、3カ国からいらしていただいた作家の方々、キュレターの方々、そして、今回の展示会を手伝ってくれましたスタッフ皆様に心から御礼申し上げます。本当に有り難うございます。

１、Cokorda Nindia氏
　テープ起こしができませんでした。

２、野村昇領事

ギャニャール県庁の方、マレーシアやインドネシア、日本からの関係者の皆様がた、ここにお集まりになった人々に謹んでご挨拶申し上げます。

　はじめに、マレーシア、インドネシア、日本から集まった８人の作家の方々、こんばんわ、そしてようこそいらっしゃいました。3カ国の作家の作品がここに集まるだけでなく、これを機会に交流の形が出来上がることを期待しております。このような展示会が開かれることにより、バリはアジアアートの中心になることができると確信しております。
バリでは、２００２年と２００５年の１０月はじめに２回のテロ事件がありました。そのあと、まだバリの人々は、重い雰囲気の中におります。そういう中にあってこの展示会は、バリの人を生き返らせるものであり観光を活気づけるものであり、全くいい時期に開催されました。別の言葉で言えば、この展示会は、特にバリ芸術を含む観光業の活性化を動機づけるものであります。
　私は、このような3カ国からの作家の展示会を開いたマデ　スディアナさんと和田浩美さんに感謝の意を述べたいと思います。このような展示会がここだけでなく、続けて行われますよう期待いたします。
　最後になりましたが、この3カ国からの作家の展示会が滞りなく、成功いたしますようお祈り申し上げます。またこの場をかりて、キリスト教でのクリスマスをお祝いすると同時に、ここにいらしております方々のますますのご発展をおいのりしまして、２００６年新年の挨拶に代えさせていただきたいと思います。
有り難うございました。

３、藤原恵洋教授

ここに、「The Roots of Asia」と題されたアジア彫刻展が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。
　この２００年、産業革命以降の世界は、資本主義社会という巨大な１本の樹木を作り出してきました。これは、中心に位置する幹と、広がる枝、おい繁る葉からなるものです。幹を生産と資本の中枢である工場と銀行になぞらえれば、枝葉へ広がる明快な構造は、流通や情報のネットワークと見ることが出来ます。機能的で生産性の高い「近代主義」の名の社会ヒエラルキーが、ここに保持されてきました。
　人間の造形活動が芸術表現の歴史的変容を考察してきた私は、こうした可視的な資本主義の社会構造を支える地面の下の世界こそ、注目しなければならないと思うようになりました。
　そこには、いったいなにが隠れているのでしょうか？
四方八方へ混沌としたからみあいを生み出す根っこの様相は、支え合い助け合い、相互依存や相互補管を繰り返す私達の人間のう生々しい暮らしの現場のようでもあり、神話的神秘的な精神世界の複雑さのようでもからみあうことが、大きな相乗作用を生み出しているのであります。より大きな社会が世界へではなく、より小さな共同体や仲間社会にこそ、私達は注目する必要が生じてきているのです。
　「近代主義」に導かれた欧米社会の主導に撮ってかわり、私達のアジア社会は、人間愛と相互扶助に満ちた新たな価値を生み出そうとしています。多重的な精神性と豊かな抱擁力による相互理解、さらには独創的な表現力や造形力がところ広しと産み落とされているかのようです。
　本展覧会こそ、こうしたアジアならではの根を探りだそうと企画されたものです。自然素材に働きかけ、人の手と体一つで造形されたものの魅力や塑求力や神秘さにどうぞ対峙なさってください。これらの表現をめぐり、さらにアジアの根とはなにか、皆様方の交流と談論風発が深まることを期待してやみません。